



ICF 国際生活機能分類

International Classification of Functioning, Disability and Health

吉川ひろみ

広島県立保健福祉大学

広島県作業療法士会社会貢献部長



障害のとらえ方 :ICIDHまで

- 1899 貧困の原因に身体障害がある
- 1919-1976 障害の2側面 (医学・生活)
- 1967-1971 障害の3レベル
 - Haber: impairment, functional limitation, disability
 - Jefferys: impairment, disablement, handicap
 - Harris: impairment, disability, handicap
- 1971-1980 障害各レベルの関係、概念図
- 1980 国際障害分類ICIDH試案出版

- ● ● | WHOの枠組み
- 1855 死亡分類リスト
- 1900 国際疾病分類ICD-1
 - (1993にはICD-10)
- 1948 健康の定義
- 1972 『CIDH』国際障害分類 (パリ案) 提案
- 1976 『CIDH』試案提出、出版決定
- 1980 『CIDH』出版
- 1990 『CIDH』改定作業開始
- 2001 『ICF』国際生活機能分類採択

- ● ● | 健康の定義 (WHO, 1948)
- Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.
- 完全な身体的、精神的及び社会的に良好な状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない



リハビリテーションの定義

- 医学的、社会的、教育的、職業的手段の組み合わせ、かつ相互に調整して訓練あるいは再訓練する事によって、障害者の機能的な能力を可能な最高レベルに達せしめる事 (WHO ,1969年)
- 身体的、精神的、かつまた社会的に最も適した機能水準の達成を可能とすることによって、各個人が自らの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指し、かつ時間を限定したプロセスである (国連 ,1982年)



基本的人権

参政権、社会権、精神的自由権、
経済的自由権、生存権、
法の下での平等、
生命・自由・幸福の追求権

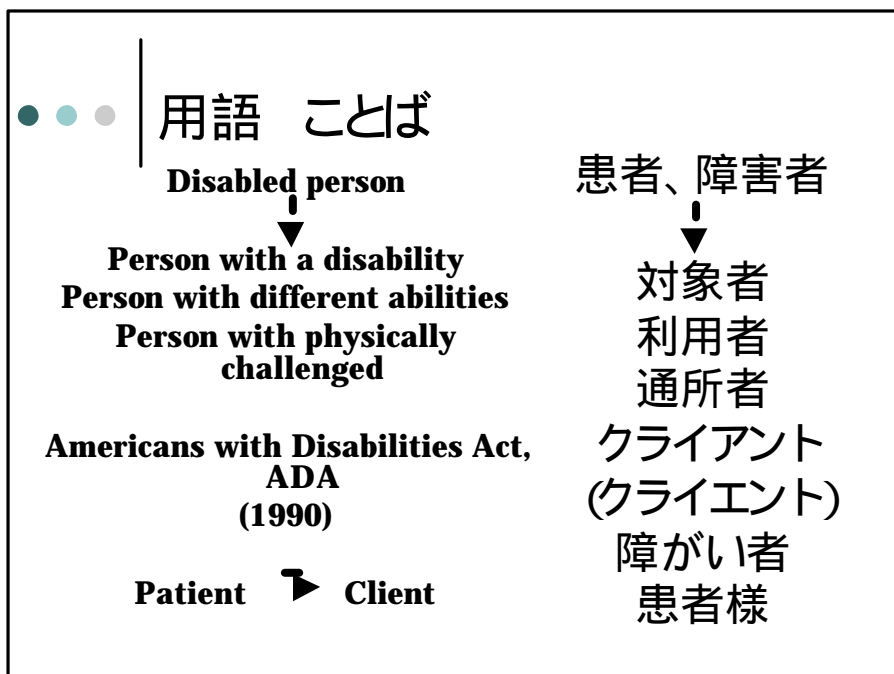
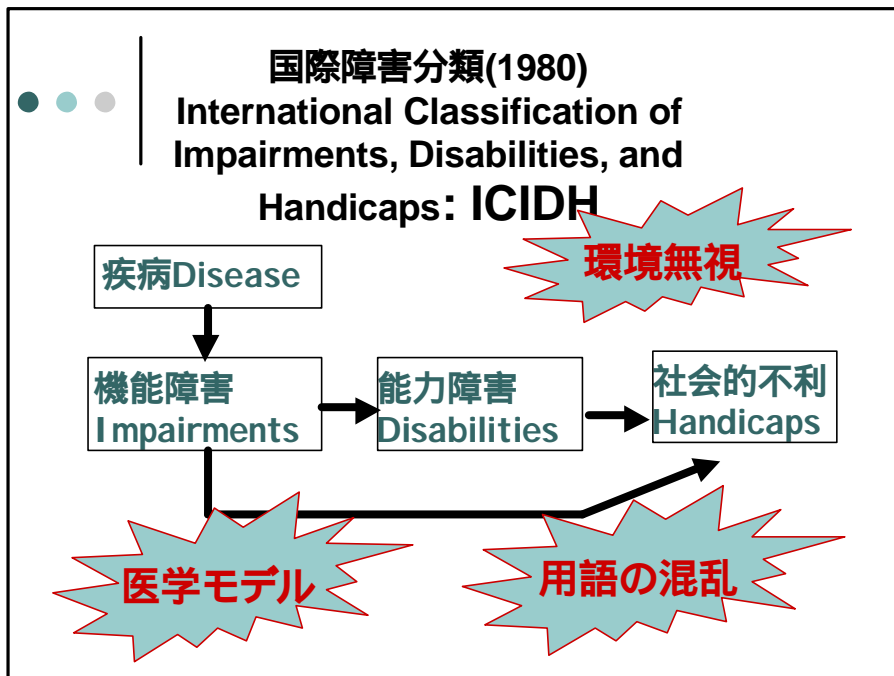
- 障害者の人権
 - 知的障害者の権利に関する宣言 (1971 ,国連)
 - 障害者の権利に関する宣言 (1975)
- 対立する思想
 - 優生思想、社会防衛思想

● ● ● | 自立生活 (IL) 運動

- 1960年代、アメリカの障害をもつ大学生の運動が、公民権運動やノーマライゼーション思想と結びついた。
- 他人の助けを借りて15分で服を着、仕事に出かけられる障害者は、自分で服を着るのに2時間かかるため家にいるほかない障害者よりも自立している。」
- 自己決定と選択権
- ピアカウンセリング、セルフヘルプ
- 消費者

● ● ● | エンパワメント

- 一人ひとりが力をつけて、自分のことを自分で決めたり、自分が住む社会を変革していけるようになること
- なんらかの理由によって当事者が主張したり、行動できない場合に、代理人が行うことを、アトボカシーという



● ● ● | ICIDH改定の基本姿勢
人の生活機能と障害と健康の
分類システム

- すべての人々に適用できる
- 多面性を強調する
- 環境要因を考慮する

● ● ● | ICIDH改定の目的

- 一連の健康状態を考えるための科学的基盤を提供する
- コミュニケーションを広げる共通用語を作る
- 各国、各専門領域、サービス形態、時間の違いを超えた比較を可能にする
- 健康に関連する情報システムのための体系的分類枠組みを提供する

● ● ● | ICFの基盤


- 人間の機能 - 障害だけではない
- 包括的モデル - 小範囲モデルではない
- 統合モデル - 医学, 社会モデルではない
- 相互作用モデル - 直線関係ではない
- 類似性 - 病理学的原因追求ではない
- 包含的 - 背景 (環境・個人) を考慮する
- 文化 - 西洋文化的概念ではない
- 解釈的 - 理論優先ではない
- 生涯 - 成人だけではない

● ● ● | 原因 状態の類似性

- 腕や脚の喪失
 - 地雷 = 糖尿病 = サリドマイド
- 日常的活動からの隔離
 - 風邪 = うつ = 腰痛 = 狭心症
- ステイグマ
 - ハンセン病 = 統合失調症 = てんかん = イイス^{*}
(分裂病が統合失調症と変更されたのは, ステイグマ緩和という目的もあった)

● ● ● | 障害のとらえ方

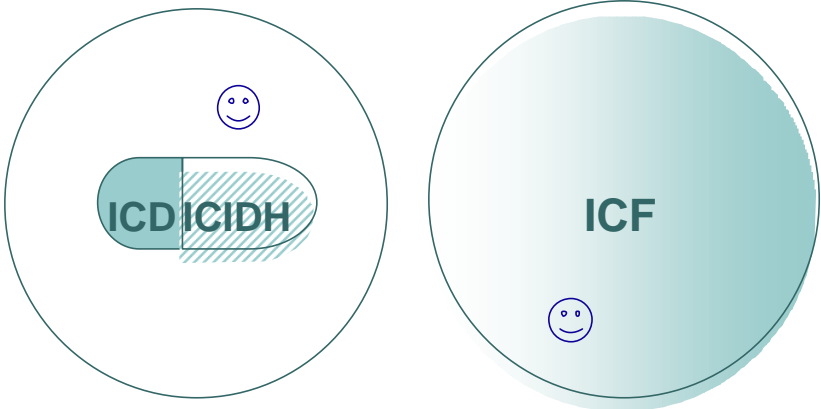
ユニバーサル vs. マイリティ



誰もが障害をもつかも
健康と障害は連続する
多面的

障害者と健常者
健康と障害は別々の枠
一面的

● ● ● | ICDからICFへ



● ● ● | 文化的平等性の確保

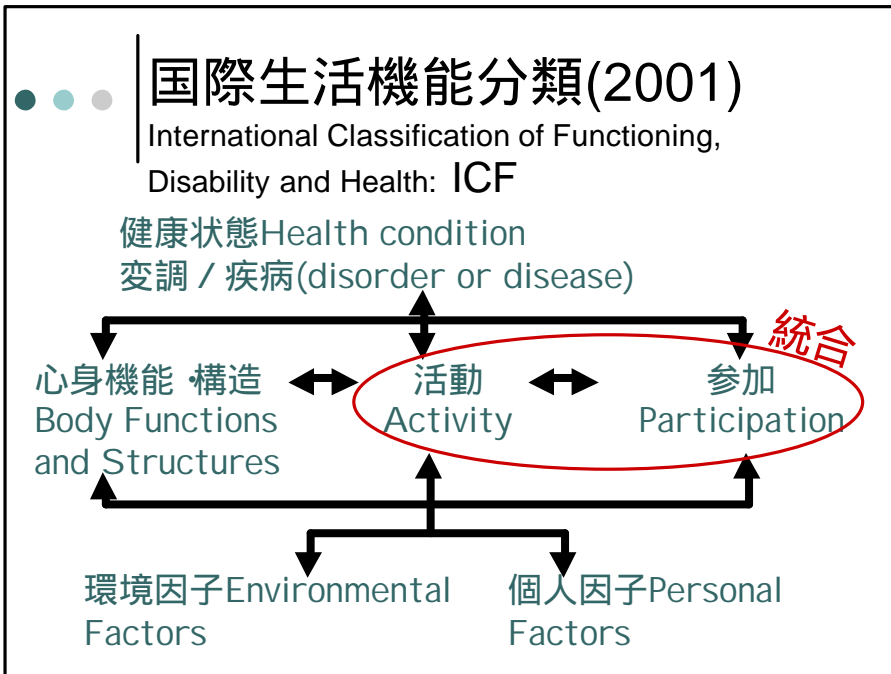


概念と機能の平等性を保つ
 翻訳し易い言葉
 使い易い言葉
 国際比較ができるための分類枠と評価点

● ● ● | ICIDHからICFへ

「疾病からくる障害」 「健康の要素」

<p>障害 機能障害 能力障害 社会的不利 環境なし 直線的因果 定義なし 評価なし</p>	<p>機能と障害と健康 心身機能・構造 活動・参加</p> <p>環境因子 相互作用・統合 定義あり 評価との関連付け</p>
---	--



● ● ● ICFの要素

心身機能・構造 Body Functions & Structures	活動・参加 Activities & Participation	環境因子 Environmental Factors
 <p>機能 Functions</p> <p>構造 Structures</p>	 <p>能力 Capacity</p> <p>実行状況 Performance</p>	 <p>障害因子 Barriers</p> <p>促進因子 Facilitators</p>

● ● ● 心身機能・構造 Body Functions & Structure	
心身機能	身体構造
1. 精神	1. 神経系 (脳)
2. 感覚と痛み	2. 目・耳関連
3. 音声と発話	3. 音声と発話関連
4. 心血管・免疫・呼吸器	4. 心血管・免疫・呼吸器
5. 消化器・代謝・内分泌	5. 消化器・代謝・内分泌
6. 尿路・性・生殖	6. 尿路性器
7. 神経筋骨格・運動	7. 運動関連
8. 皮膚関連	8. 皮膚関連

● ● ● 心身機能 精神機能 全般的な精神機能 (b110-b139)	
○ b110	意識の機能
○ b114	見当識の機能
○ b117	知的機能
○ b122	全般的な心理社会的機能
○ b126	気質と人格の機能
○ b130	活力と欲動の機能
○ b134	睡眠機能
○ b139	その他特定の, および詳細不明の, 全般的な精神機能

● ● ● | b 1 1 4 見当識機能

定義 :自己、他者、時間、周囲環境を知り確かめる全面的精神機能。

含まれるもの 時間、場所、人に対する見当識機能。自己と他者に対する見当識。時間、場所、人に対する失見当識。

除かれるもの :意識機能 (b110), 注意機能 (b140), 記憶機能 (b144)。

● ● ● | ICF分類項目
レベルとコードの例

	b	心身機能
第1レベル	b1	精神機能
第2レベル	b114	見当識機能
第3レベル	b1142	人に関する見当識
第4レベル	b11420	自己に関する見当識
	b11421	他者に関する見当識
	b11428	その他特定の, …
	b11429	詳細不明の, …



活動と参加

Activity & Participation

1. 学習と知識の応用
2. 一般的課題 (日常習慣、ストレス対処)
3. コミュニケーション
4. 運動・移動 (姿勢、物の扱い、移動)
5. セルフケア
6. 家庭生活
7. 对人的相互作用と対人関係
8. 主要な生活領域 (教育、雇用、経済生活)
9. 地域社会、市民生活 (余暇、人権、政治参加)



環境因子

Environmental Factors

1. 生産物と機器
2. 自然環境、人間がもたらした環境変化
3. サポートと人間関係
4. 態度
5. サービス・制度・政策



項目数

ICIDH (1980)

機能障害 1009

能力障害 338

社会的不利 7

合計 1354項目

ICF (2001)

心身機能 493

身体構造 310

活動と参加 389

環境 251

合計 1443項目



活動と参加の下位項目の例： 交通機関や手段を利用しての移動

d470 交通機関や手段の利用

d4700 人力による交通手段の利用

d4701 動力付きの私的交通手段の利用

d4702 動力付きの公的交通手段の利用

d4708 その他の特定の...

d4709 詳細不明の...

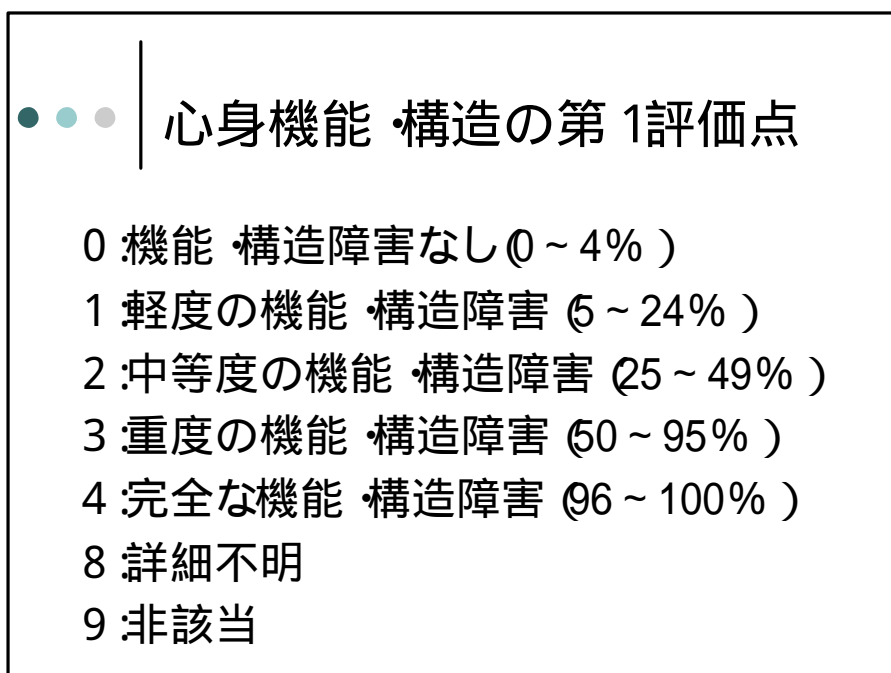
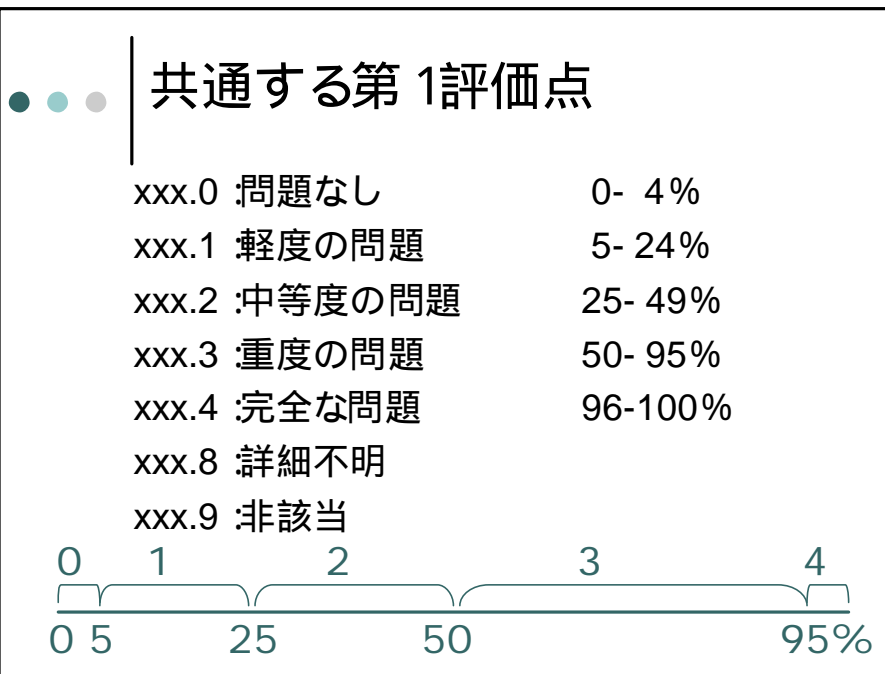
d475 運転や操作

d4750 人力による交通手段の操作

d4751 動力付きの交通手段の運転

d4752 動物付きの交通手段の操作...

d480 交通手段として動物に乗ること...





身体構造の第2,3評価点

第2評価点	第3評価点
0: 構造に変化なし	0: 2部位以上
1: 全欠損	1: 右
2: 部分的欠損	2: 左
3: 付加的な部分	3: 両側
4: 異常な大きさ	4: 前側
5: 不連続	5: 後側
6: 位置の変異	6: 近位
7: 構造上の質的変化	7: 遠位
8: 詳細不明	8: 詳細不明
9: 非該当	9: 非該当



活動参加の評価点

0: 困難なし (0 ~ 4%)	第1評価点: 実行状況
1: 軽度の困難 (5 ~ 24%)	第2評価点: 能力
2: 中等度の困難 (25 ~ 49%)	
3: 重度の困難 (50 ~ 95%)	第3評価点
4: 完全な困難 (96 ~ 100%)	援助つきでの能力
8: 詳細不明	オプション
9: 非該当	第4評価点 援助なしでの 実行状況

● ● ● 環境因子の評価点	
xxx.0 問題なし	xxx.+0 促進因子なし 0-4%
xxx.1 軽度の障害因子	xxx.+1 軽度の促進因子 5-24%
xxx.2 中等度の	xxx.+2 中等度の 25-49%
xxx.3 重度の	xxx.+3 高度の 50-95%
xxx.4 完全な	xxx.+4 完全な 96-100%
xxx.8 詳細不明	xxx.+8 詳細不明
xxx.9 非該当	

● ● ● 評価点の使い方	
○ b16700.1	話し言葉の受容」 軽度の機能障害
○ s73021.321	手と手指の関節」 重度の構造障害,部分的,右
○ d7104.32	対人関係における合図」 重度(実行)中等度(能力)の困難
○ d9201.00	「スポーツ」困難なし
○ e1101.9	薬」 非該当
○ e320.+3	友人」 高度の促進因子
○ e460.2	社会的態度」 中等度の障害因子

● ● ● | 誰がICF を使うか

健康関連機関 , 社会保障 , 教育機関 ,
労働関係機関 , 経済や地域開発機関
規則や法律関連機関 , その他

何の目的でICFを使うか

ニーズ評価 , 成果評価 , 利用パターン調査
異なる介入を行った時の比較 , 利用者満
足度調査 , 成果 , コスト(費用対効果) , 電
子情報として保存 , 臨床的専門用語....

● ● ● | 文献と関連サイト

- 世界保健機関 (WHO) :ICF国際生活機能分類 .
中央法規 , 2002
- ICFホームページ
www.who.int/classification/icf
- 高橋泰 :ICFイラスト・ライブラリー
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/icf_jpn/index.html
- 佐藤久夫 :障害構造論入門 . 青木書店 , 1992

● ● ● 作業療法の定義 WFOT, 2004

- OTは、**作業**を通して**健康と安寧**を促進することに関心をもつ専門職である。OTの基本目標は、**人々が**日常の**活動に参加**することが**できるよう****にする**ことである。作業療法士は、**参加**するための能力を強化したり **参加**をよりうまくサポートするような**環境**を整備したりするようなことを、人々が行えるようにすることによって成果を出す。
- 作業療法士は、個人や集団、あるいは健康状態によって**心身機能や構造**の障害をもっていて**参加**の際に障壁を経験している人々の集団と協働して取り組むための技能や知識を備えるような広い教育を受けている。(つづく)

● ● ● 作業療法の定義WFOT, 2004つづき

- 作業療法士は、**参加**は物理的問題や社会の態度や制度といった**環境**によって、促進されることもあるし制約されることもあると思っている。それゆえOT実践は、**参加**を広げていくための**環境**の側面を変えることに向けられるかもしれない。
- OTは広く様々な状況で実践される。そこには、病院、保健センター、家庭、職場、学校、更生施設、高齢者居住施設が含まれる。クライアントは治療過程に積極的にかかわる。そして、OTの成果は、多様でありクライアントが決め、**参加**という点や**参加**がもたらす満足という点において測定される。